

# 泉管弦楽団

## 第53回定期演奏会



2023年6月4日(日) 14:00開演 横浜市泉公会堂ホール

指揮・ヴァイオリン独奏 田野倉 雅秋

主催 泉管弦楽団 後援 泉区役所 楽譜協力 JAOミュージックライブラリー

### ご挨拶

泉管弦楽団の第53回定期演奏会にご来場いただき、まことにありがとうございます。  
新型コロナによる自粛・中断の時期を乗り越え、皆様をお迎えして演奏会を開催することができるようになりました。当たり前のように思っていたそのことが、楽団として存続し、成長していく上でいかに大事なことか実感し、感謝の念を新たにしています。

さて、田野倉先生とは、当団の定期演奏会で協奏曲を弾いていただくご縁があった14年前から回を重ね、今回のブラームス作品により三大ヴァイオリン協奏曲を含む都合6曲を皆様にお届けする快挙となります。ご多忙中、練習では合奏・表現上の様々な技法を教示いただき、皆様のお耳に叶うレベルに当団を引き上げていただいたものと思います。華麗なソロと合わせて交響曲の最後まで、どうぞごゆっくりお楽しみ下さい。

### プロフィール



指揮・ヴァイオリン独奏 田野倉 雅秋 (たのくら まさあき)

東京生まれ、4歳よりスズキ・メソッドにてヴァイオリンを始める。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、東京藝術大学に進学。その後スカラシップを得てニューヨークのジュリアード音楽院へ留学し学士号を取得。平成12年度文化庁派遣芸術家在外研修員。故小国英樹、原田幸一郎、清水高師、川崎雅夫、故ドロシー・ディレイ、チョーリャン・リンの各氏に師事。日本音楽コンクール第2位、アスペン音楽祭(アメリカ)コンチェルトコンクール優勝、カール・ニールセン国際ヴァイオリンコンクール(デンマーク)優勝。これまでにソリストとして日本フィル、大阪フィル、名古屋フィル、中部フィル、広島響、オーデンセ響、チェコ国立劇場管等のオーケストラ、外山雄三、秋山和慶、大植英次、マーティンブラビンズ、渡邊一正、

大友直人、アラン・ブリバエフ、ランシュイ等の指揮者と共演している。

広島響・名古屋フィルのコンサートマスター、大阪フィル首席コンサートマスターを経て現在日本フィルハーモニー交響楽団ソロ・コンサートマスターおよび兵庫芸術文化センター管弦楽団コンサートマスター。また、仙台フィル、神奈川フィル、東京響、日本センチュリー響、KBS響(韓国・ソウル)等のオーケストラに客演している。

### お知らせ

団員募集中。練習は月2回、日曜日午後、緑園地域交流センター(緑園都市)ほかにて。詳細は、団HPまたは泉管弦楽団事務局(izumikangengakudan@yahoo.co.jp)まで。

次回演奏会は、2023年12月3日(日)泉公会堂、指揮 福井 雄一によるチャイコフスキーの交響曲第5番ほかを予定しています。

## 曲 目 紹 介

### ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品77 ブラームス (1833~1897) ドイツ

第1楽章 アレグロ・ノン・トロポ / 第2楽章アダージョ / 第3楽章 アレグロ・  
ジョコーソ・マノン・トロポ・ヴィヴァーチェ

作曲時期は第2交響曲と重なり両者は曲のもつ雰囲気も似て、調性(ニ長調)、第1楽章が3拍子、中間楽章冒頭でのオーボエなど、共通点がある。45歳の年である1878年に完成、親交のあったヴァイオリニスト、ヨアヒムのソロと作曲者自身の指揮で翌年に初演。

当初は4楽章構成で構想されたが、後に2つの中間楽章を破棄し新たに現在の第2楽章を作ったとのこと。カデンツァを含む長大な第1楽章、愛らしさと嘆きの同居する第2楽章、軽快で朗らかな第3楽章から成る。作曲に当たりヨアヒムから助言があったはずだが、ソリストにとっては技術的な難所も多い。(Third Violin)

### 交響曲第4番 ホ短調 作品98

作曲されたのはドイツ音楽界でワーグナー派との対立が激しかった時期であり、そんな状況の中で絶対音楽の立場から自分の信念を貫いて書き上げ、世に問うた自信作である。1885年に完成して、同年10月25日にマイニンゲンの宮廷劇場で作曲者自身の指揮により初演され、好評を博した。ブラームス52歳の作品。(演奏時間は約40分)

第1楽章：導入部なしで第1主題から曲がはじまる(冒頭に和音を3つ響かせるアイデアもあったらしい)。第2主題は、舞曲風のリズムに乗ってチェロとホルンが朗々と奏でる。曲は2つの主題を中心としたソナタ形式で進められ、堂々としたティンパニの連打で終わる。

第2楽章：古い教会音楽の音階であるフリギア旋法が用いられ、やや古風な感じのする楽章である。ホルンが第1主題を始めると、すぐ木管楽器が呼応するように加わって展開する。情感豊かな第2主題はチェロが提示する。この主題は、再現部で戻って来たときヴァイオリンがG線で一層しみじみと歌い上げる。

第3楽章：スケルツォに当たる楽章である。ブラームスの交響曲の中でも、この楽章だけで使われるトライアングルの響きが特長的である。とても明るい曲調であるが、どこかしっくりしないところがあり、空騒ぎのような気分が残る。

第4楽章：8小節の短いテーマが繰り返される中、変奏曲が展開するパッサカリアの様式。バッハのカンタータから採った主題に基づく変奏は30回繰り返される。弦楽器の熱烈な響き、フルートソロの長いパッセージ、木管楽器による掛け合い、トロンボーンのコラールなどが変幻自在に続き、劇的なコーダに結びつく。パッサカリアという様式のためとても古風な感じがするが、ブラームスの作曲技法の粋を集めた傑作と言える。(Centre Trombone)

---

## 出演者等名簿

Concert master . . . 中村 岳志

<b>Violin</b>	苗村 美穂	加藤 敬子	谷川 昭	田中 崇行	宮澤 弘恵
伊藤 雅美	中川真由美	富田 葉子	<b>Contrabass</b>	<b>Clarinet</b>	<b>Trumpet</b>
大関 麻代	中村 岳志	土門 洋	伊東 功一	森田真由美	木村 晃
尾崎麻由美	浜田 光江	平塚 研之	内田 正弘	R. ケラー	高橋 道房
大塚 浩二	福井 恭子	平塚 貴子	大沢 陽子	<b>Bassoon</b>	<b>Trombone</b>
小野紗英子	本多 きみ	<b>Violoncello</b>	杉 文一	小野亜希子	小島 勉
川久保裕梨	松島 一匡	江原 聡子	<b>Flute</b>	小野 真介	松山 隆之
五味 晶子	守口 徹	長田 和彦	成見 正明	藤田 高	吉田 智生
柴田 一徳	若松由利子	春日 彩子	西原 清美	<b>Horn</b>	<b>Percussion</b>
土屋亜紀子	<b>Viola</b>	加藤 律美	山本 美樹	河南 周作	張原 惟吹
土門 純子	大橋 悦子	黒木 恵子	<b>Oboe</b>	中根 薫	鱒沢 凜
苗村 賢一	恩賀 智子	柴田真紀子	江尻 佳代	前田 祥博	